

南ア、与党ANC議長にラマポーザ副大統領

～市場は好感も、当面のランド相場は荒い値動きが続くとみられる～

発表日：2017年12月19日(火)

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 主席エコノミスト 西濱 徹(03-5221-4522)

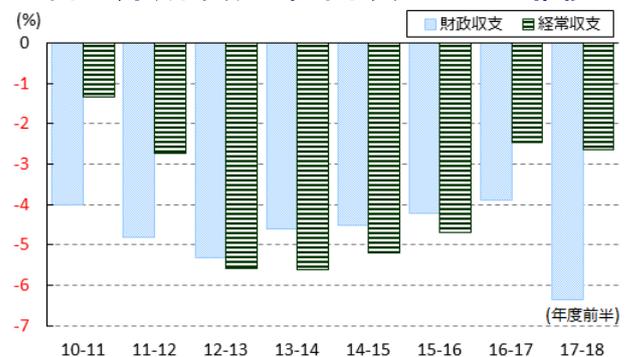
(要旨)

- 16日に開幕した南アフリカ与党ANCの党大会で議長選が実施され、ラマポーザ副大統領が新議長に選出された。ズマ大統領自身を巡る汚職・暴行問題や景気低迷により政権及びANCに対する支持率が低下するなか、改革を訴えたラマポーザ氏が勝利した。ただし、選挙戦はズマ氏が元妻のドラミニ＝ズマ陣営を支持する一騎打ちとなり、苛烈な選挙戦を通じてANCは事実上の分裂状態を迎える事態を生んでいる。
- ラマポーザ氏はマンデラ氏の側近ながら、実業界に転身して成功を収めた後に政界復帰した異例の経歴を有する。こうしたことが産業界や労働組合などからの支援に繋がる一方、その後の激闘を招いた。2019年の次期総選挙でANCが与党を維持すればラマポーザ氏は次期大統領となるが、今後はANC内の権力争いが本当の分裂を招くリスクもくすぶる。金融市場はラマポーザ氏勝利を好感してランド相場は持ち直しているが、短期的に政策変更が起きる可能性が低いことを勘案すれば当面は荒い値動きが続くとみる。

- 16日に開幕した南アフリカの与党アフリカ民族会議（ANC）の党大会では、18日に議長（党首）選挙が行われ、ラマポーザ副大統領が新たな議長に選任された。ANC議長選は、2019年に行われる次期総選挙の後に行われる大統領選の事実上の「前哨戦」の色合いが強い。ただし、憲法規定上大統領は2選までとされており、今回の議長選に現職のズマ大統領は出馬出来ない。よって、ズマ氏の元妻で外相や保健相を歴任し、今年1月までアフリカ連合（AU）委員長を務めたドラミニ＝ズマ氏が出馬し、ズマ氏も同氏を支持したことで事実上の一騎打ちによる選挙戦が行われた。代議院による投票の結果、ラマポーザ氏は2440票と過半数の票を獲得したものの、一方のドラミニ＝ズマ氏も2261票獲得するなど、あらためてANC内の分裂が激的な状況にあることが示された。この背景には、10年に亘ってズマ氏が同党議長を務めてきた間、ズマ氏自身を巡ってしばしば汚職や暴行などの疑惑が取り沙汰されてきたほか、長期に及ぶ景気低迷によって経済格差が広がるとともに、部族間での格差の固定化が進むなどの社会問題が表面化してきたことも影響している。こうした事態を受けて、ズマ政権は国営企業への国費投入などによる公共料金引き下げをはじめとする「バラ撒き政策」により対応する姿勢をみせてきたが、ここ数年の国際商品市況低迷による歳入減も相俟って財政状況は悪化の一途を辿った。他方、政府内では格付機関などによる評価を維持させるべく、財務相を中心に財政健全化に向けた取り組みを進める動きがみられたが、ズマ大統領は2015年末に当時のネネ財務相を、今年3月には当時のゴードン財務相を相次いで更迭するなど、政権

内で自身の意にそぐわない人物の排除に動いた。そうしたなか、実業界出身のラマポーザ氏を中心に与党ANC内からズマ氏の政策運営に対して公然と批判の動きが出たほか、産業界やANCの最大の支持団体である労働組合からも次期議長にラマポーザを推す声が高まり、今回の議長選に向けた動きが大きく活発化し始めた。

図1 財政収支及び経常収支/GDP比の推移

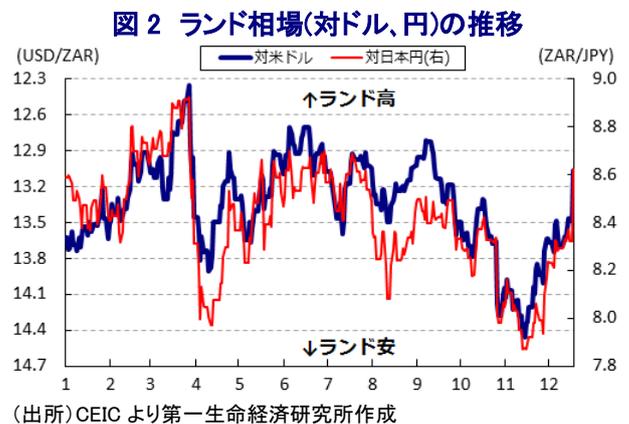


(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

その一方、ズマ大統領は巧みな議会戦術及び与党内での影響力の行使などを通じて自身に降りかかる疑惑の「火消し」に躍起になってきたが、そのことが国民からの政権支持率のさらなる低下を招いたほか、ANC内の分裂状態を一段と広げることに繋がったとみられる。また、今年8月にはズマ政権下で初めて不信任が議会で採決される事態となり、最終的に否決されたものの与党ANC内やその友党から多数の造反者が出たことが明らかになったことで、ズマ氏はANC内の引き締め姿勢を強めるとともに、議長候補としてドラミニ＝ズマ氏の支持に回った。なお、ドラミニ＝ズマ氏自身はAU委員長を歴任するなど豊富な政治経験を有する上、同国最大部族であるズルー出身ながら人種間の格差解消を掲げるなど地方部の黒人を中心に支持を集める一方、ズマ氏が公然と支持に回ったことでズマ氏の「院政」色が強まるとの見方に繋がった。こうしたことも、ANC内でズマ氏に批判的な層を中心にラマポーザ氏への支持が広まるとともに、ANC内における分裂が抜き差しならない状況にまで広がる事態を招いたと考えられる。

- なお、ラマポーザ氏は同国の反アパルトヘイト（人種隔離）を主導したネルソン・マンデラ氏の側近のひとりとして政府との交渉に尽力し、労働者の権利向上に向けて労働組合の設立などに手腕を発揮したほか、与党ANCの事務局長などを務めた。その後、実業界に転身して投資会社を設立するなど、同国有数の富豪として知られたが、2012年にANCの副議長に選出されたことで政界に復帰し、2014年からは副大統領職を務めている。こうした経歴もあり、かなり早い段階から産業界は次期議長選挙を見据えてラマポーザ氏を推す姿勢を決定したほか、労働組合もラマポーザ氏を推すことに繋がったとみられる一方、ズマ大統領を中心とするANC主流派による切り崩し工作が強まったと考えられる。こうしたことを受け、ラマポーザ氏は議長選を通じてズマ政権下で多くの汚職問題が表面化するなかでその対策強化に加え、経済を再び活性化させることを公約に掲げるなど、「反ズマ」色を前面に押し出した選挙戦を行った。今回、新議長にラマポーザ氏が就任することが決定したことで、現状議会下院（国民議会）においてANCは総議席数400のうち249議席と単独過半数を有するなか、2019年に予定される次期総選挙で引き続きANCが過半数を維持することが出来れば、ラマポーザ氏が次期大統領に就任することとなる（大統領は国民議会で選出されるため）。ただし、一連の議長選を通じてラマポーザ陣営とドラミニ＝ズマ陣営は苛烈な選挙戦を行ったことで、今後はANC内の最高意思決定機関も両陣営で分裂することは避けられない情勢となっている。さらに、党内で両陣営による主導権争いが厳しくなることも予想され、仮にそうした権力闘争によって党内の政策策定及び意思決定が困難な状態に陥れば、結果として分裂する可能性も懸念される。他

方、政権を巡ってはズマ大統領の任期が2019年まで残されており、引き続きズマ氏の元で運営が行われるほか、閣僚についてもズマ氏の側近が多く残る状況が維持されるとみられ、短期的に政策の方向性が大きく転換される可能性は低いと見込まれる。なお、金融市場では実業界出身、かつ投資家にとって望ましい政策遂行が期待されるラマポーザ氏が勝利したことで通貨ランド相場は大きく上昇するなど、好意的な反応がみられる。しかしながら、上述したようにANC内の分裂状態が顕在化しており、短期的に政策の方向性が変わる見通しが立ちにくいなか、先月末には米系格付機関のS&Pグローバル・レーティングが外貨建のみならず自国通貨建信用格付も「投資不適格」するなど長期投資家が根付きにくい環境にあることを勘案すれば、当面について



は引き続き上下双方に動きやすい荒れた相場環境が続くと予想される。

以 上